

母親に振り回される少女

祖母が相談に来られた。中学校3年生になったばかりの孫（女子中学生）の不登校の相談だった。聞くに、彼女は2年の2学期から学校に全く行っていない。今は18歳になる社会人の姉と、祖母の3人暮らし。祖父は他界、母親は8歳上の男の所にいると言う。

5人きょうだいの長女の母親は、結婚しても県中部の実家の近くに住み、二人の娘をもうけた。しかし、彼女が中1の5月に、離婚した。それを機に、（後に母親が言うに）別れた元夫と離れたく、二人の娘を連れて、西部に住む15歳下の独身の弟を尋ね、移り住んだ。

小児喘息持ちの彼女は、それがために幼稚園は半分は休んだが、小学校はほぼ出席だった。両親の離婚で、中学校に上がったばかりなのに、急に遠い中学校に転校させられた。それでも、1年生は10日ほどの欠席で過ごせたのも、活発で世話好きで優しい彼女ゆえに、すぐに友達が多くできたからであると、後に母親は他人事のように言った。

ところが、夏休みに入ったら母親のもとに、中部の実家の祖母宅の近所にある店を任せるから、戻って来ないかという話が飛び込んできた。そこで母親は、弟のアパートでの生活の息苦しさもあり、再び二人の娘を連れ、彼女が生まれ育った中部の地に戻ってきた。でも、後で分かったが、そこには男の影があった。折角たくさん友達ができ、楽しく学校生活を送っていたのに、彼女の両親の離婚を知る小学校の同級生のいる、今の中学校に転校することに、彼女は強く抵抗したが、抵抗し切れなかった。

彼女は2学期から、4月1ヶ月だけ通った今の中学校に、再び転校してきた。時々病欠することはあったが、2年の1学期までは、彼女曰くあえて「普通に」通った。

夏休みに入ると、姉もいる席で母親から、同居を望む年上の男性がいると打ち明けられた。先妻との間の彼女より10歳上の息子が同居するその男性とは、離婚後知り合い、西部に引っ越しした後も時々会っていたようで、こちらに戻ってきてからは、急速に深い間柄になったと言う。祖母も夫（彼女の祖父）亡き後に知り合った男性の元に、時々行くようで、血は争えない。これまた寝耳に水の話であった。疑わしき母親の行動はあったが、そんなことになっているとは、姉共々驚いた。

しかし娘たちの反対を押し切って、その男性を連れ子と共に家に呼び込んできてしまった。仕方なく2週間ほど一緒に暮らしたが、どうしてもその男性は好きにならず、しかも連れ子の男の子と姉共々とも合わず、彼女は姉と話し合って一緒にアパートを出て、祖母の家に行ってしまった、と言う。そして2学期から、彼女は学校にも行かなくなってしまった。

3年になって学校にも行かず、勉強するでもなく家でブラブラ過ごし、時たま彼女の仲間たちが家に集まり騒ぐ彼女に困り果て、祖母が当ファーラムの相談会が公民館であることを知り、相談に来た。祖母から彼女の家族構成を聞き、彼女が中2の2学期から学校に行つてなく、3年になっても行かないし、これでは高校にも行けないのではないか、と訴えた。詳しいことは本人でないと分からぬからと、祖母に言われ、本人とは同月2回目の相談会で会うことになった。10日後、祖母に連れられて来て、公民館で彼女に会った。短時間で

は話し切れないと言う彼女に、「今日は私は君との面談だけだから、ゆっくり話してくれていいよ」と伝え、彼女の話を聴いた。時々祖母も、話を付け加えた。それが上記の内容だった。勿論、実際はもっと詳しく聴いたが、本人が特定されることから、この程度で割愛させて頂く（勿論、これまでの話も一部変えてある）。翌月中旬の修学旅行は行くつもりだが、学校は行かないと、彼女は言う。「母とは一緒に暮らしたいが、あの男とあの息子は絶対嫌！」と、厳しい表情になった。勉強しようとするとイライラして、ぬいぐるみに八つ当たりすることがある。エステとか美容に興味があり美容師になりたいと、夢を語る。私も知るスクールカウンセラー（大学の教員）のカウンセリングを受けているせいか、カウンセラーにもなりたいとも言う。勉強の話になると、トーンが下がる。美術と音楽は得意だが、英語と社会は苦手。勿論、学校に行ってないので、美術部に所属してい「た」、という表現になる。

心理テストも採った。父性（頑固親父性）0（100点中、以下同じ）、母性（お節介おばさん性）100、知性（コンピューター人間性）10、感性（やんちゃ性）90、順応性（いい子ぶりっこ性）90だった。高い母性は、母親思いの優しい面と母親に対する面倒見に良さに現れているが、感性が高いわりに、高い順応性を考え合わせると、母子分離不安が強い。高い感性と低い父性から、怠業的な不登校である面が伺われる。その意味で明るく、遊びやリラックスがうまく、開放的な面もある。低い父性と知性から、物事の取り組みに押しが利かず、ルーズで自己主張もしない。これが彼女の不登校を長引かせている、と私は分析した。勿論、本人の同意のもと、当該中学校にもこの分析は報告した。

その数日後、母親とも当フォーラムの事務所で面談した。母親の5人のきょうだいの詳細な家族構成と、同居している男性の家族構成も聞いた。詳細は上記の同様な理由で割愛する。任せられた店は飲食店だった。男性はその店にも来て親しくなったと言う。彼女を、せめて高校ぐらいは出させたいと言う。娘たちが自分を求めていることも分かっているが、女の性に逆らえないと、あからさまに私に言う。私の説得にも、母親になりきれない。

祖母と母親の申し出から、本人の同意の元、4月の下旬から私達の対応が始まった。と言っても彼女は、週1回しか当フォーラムに来ない。週によっては来ないこともあり、その時は電話で本人と話し、彼女の状態を探った。

5月下旬になり、いよいよ変わらない彼女の不登校に母親が意を決し、男の居るアパートを出て（私も説得しがいがあったと思う）、11歳下の妹（祖母の三女）で一人娘が居るシン글マザーと一緒に、娘たちが暮らす祖母の家に入った。

7月に入り、彼女は長く休んでいることで周りの視線が大変気になり、まだまだ緊張してしまうようで登校は無理ではあるが、2学期からは登校したい旨の話が、彼女から出てきた。この機を待っていた私は、この夏休みに行われる長野・八ヶ岳で行われる夏の交流合宿参加を勧め、同時に1学期の修了式の前に2,3日登校することを提案した。彼女は素直に同意した。ちょっと意外だった。

こうなったらいつもの対応が始まる。当該中学校に連絡し、木曜日の放課後に、彼女が指名する5,6人の級友（さすがに彼女の場合は多い）の同意を取り付け、学校の授業やクラス

の様子を話し合う場を設けてもらった。

結果、1学期の終業式の前、翌金曜日から3日間の授業復帰を果たし、長野・八ヶ岳の夏の交流合宿を本当に楽しく過ごし、満願の笑顔で5,6人の友達を従え、2学期からの再登校を果たした。

母親は、その姿を私に語った。